

## 有瀬西峯が生きる ―生業、居住、信仰を継承し、魅力を守る拠点設計を通して―

有瀬西峯  
集会所

山地集落  
防災拠点

新規就農  
Passive System

1230129 長谷川 紗良  
指導教員 渡辺 菊真

### 1. 背景

高知県香美市香北町、物部川中流域の山腹に位置する有瀬と西峯は 1 つの山を共有し、棚田を生業として生きる 2 つの山地集落である。2 集落は自然



図 1. 有瀬西峯の写真

地形（タコウノヤマ）や人為地形（木馬道、水路）を共有しながら並存しているが、それぞれの集落は異なる性質を持つ。有瀬は 3 本の水路を持ち、農業を行うための基盤が十分に整えられている。西峯は信仰空間を主に成り立ち、信仰との深い関わりの中で豊かな生活や空間を生み出す。また、西峯では棚田に菜の花を植える「天空の菜の花畑」が有名で、ここ数年観光客が多く訪れている。菜の花畑自体を営むのは西峯の集落民であるが、農業の基盤が整えられている有瀬と信仰との深い関わりをもつ西峯の 2 集落が併存することで生業が発展的に継承されて出来上がった集落特有の空間であり、単に美しいだけでない魅力を持つ。



図 2. 有瀬西峯の魅力

しかし、有瀬西峯は共に人口減少が加速している。このままだと集落が消滅し、生業や居住、信仰が継承される中で生まれた魅力が失われる。この現状から、有瀬西峯の魅力を守るための拠点をつくりたいと考えた。

### 2. 目的

本設計の目的は有瀬西峯の生業、居住、信仰を継承し、魅力を守る拠点をつくることである。

### 3. 設計の方針

#### 1) 集落で暮らす住人を増やす。

―長期的な就農研修用の生活拠点をづくり、新規就農者を受け入れる。

―集会所を併設し、新規就農者と集落民の新たなコミュニティを育む拠点とする。

#### 2) 有瀬西峯のインフラや自然を活用した持続可能な集落を目指す。

―人為地形（代替インフラ）と自然を活用した防災拠点とする。

―Passive System を導入し、快適な温熱環境を備えた拠点とする。

#### 3) 有瀬西峯の根幹を深く感じる拠点とする。

―有瀬西峯を実感し、集落の魅力に共感して生きていく。

### 4. 敷地の選定

有瀬西峯の根幹をなす自然地形（タコウノヤマ）・人為地形（木馬道、水路、棚田）が深く感じられる場所で、なおかつ両集落の中間的な位置にある敷地を選定する。有瀬西峯が共有する木馬道の近くであり、水路や棚田に関連することを条件とする。これにより、図 3 に位置する台形に広がる広場状の土地と、その上部の 2 段の棚田を敷地として選定する。敷地を広い範囲で見ると有瀬の住居群、西峯の住居群の中間付近に



図 3. 対象敷地と周辺

1) 出典：地理院地図に文字、図形、方位を追記

位置し、周辺を木馬道と畦道、水路で囲まれている。木馬道は原則的には尾根線上に引かれているが、尾根線上の当敷地のみは避けるように走る。これにより、周囲の東西に延びる棚田とは異なる特殊な台形の棚田が形成され、どこか人が集まり留まる広場のような印象を受ける。現在、敷地にはイチヨウが全面に植えられている。

### 5. 設計の内容

I 有瀬西峯の根幹をなす自然地形・人為地形を深く感じる空間の設計

#### a. 大地と空から決まる建築の骨格

##### a-1. 大地から決まる空間計画

台形の棚田を避けて走る木馬道と畦道からセットバックするように平面をとる。また、棚田の土壌を痛めないように地面や石垣から 1m 離して計画するため、鋼管杭を 1m 露出させる。



図 4. 大地から決まる平面 S=1:1500

南は共有の庭とするため、間口を広く取り、内部空間と繋げる。北はタコウノヤマの遙拝空間とする。2つの空間はスラブが無く、大地と直接つながる空間とする。

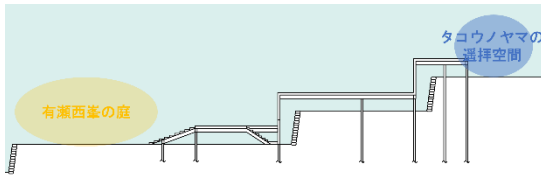


図 5. 大地から決まる断面

#### a-2. 空から決まる断面計画

ダイレクトゲイン方式の Passive System を導入するため、日射取得と太陽光発電の双方を効率よく達成できるように、冬期南中高度に合わせたノコギリ屋根と緯度勾配の底を統合した断面で計画する。

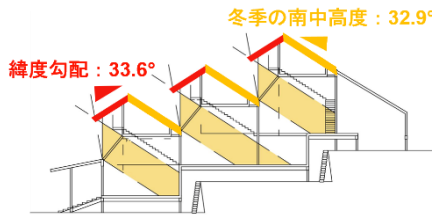


図 6. 屋根勾配と日射取得 S=1:500

#### a-3. 大地と空の統合

大地から決まる平面と空から決まる断面を下屋により緩やかに移行するように繋げ合わせ、統合する。下屋のみでなく鋼管杭と柱を組み合わせ、上部の空間を支える。

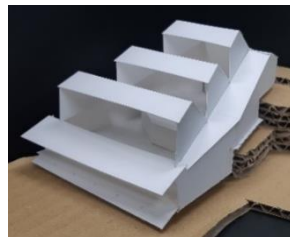


図 7. 模型写真 外観

#### b. 「有瀬西峯の庭」とその導入空間の設計

南の共有の庭を、有瀬西峯の集落民と新規就農者のすべての人が共同で花を育てる「有瀬西峯の庭」と名付ける。入口から集会所に入ると花畑の風景が一気に広がる情景をつくる。階段を下りて庭へ出ると、花畑と、空・山・町の風景が広がる。



図 8. 有瀬西峯の庭への導入 S=1:500

図 9. 花畑の情景

#### c. タコウノヤマの遙拝空間の設計

敷地北側に有瀬のヤマノカミを祀る森があり、タコウノヤマを直接眺めることが出来ない。したがって、敷地の3段目の棚田を、タコウノヤマを象徴的に遙拝する空間とする。タコウノヤマと空が成す緑と青のコントラストと、

山頂への軸線を強調するスリットを壁と屋根に設ける。遙拝空間は土間とし、大地に光の軸線が落ちる。

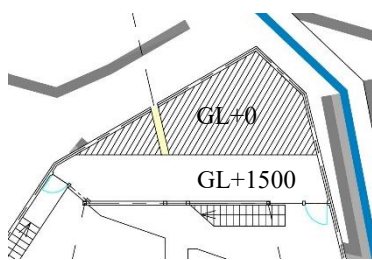


図 10. タコウノヤマの遙拝空間 S=1:300



図 11. 遙拝空間のスリット

#### III 拠点としての機能の配置

1階に集会所兼新規就農者のLDK、2階に個室を主に配置する。水回りは1階の下屋の下部にまとめる。キッチン は集落民と新規就農者の両方が使用できる。

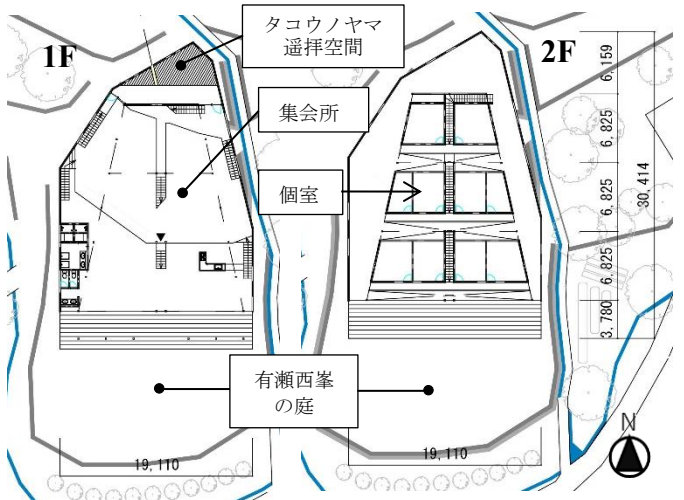


図 12. 1階・2階平面図 S=1:750

#### 5. まとめ

新規就農者はこの拠点で暮らし、有瀬西峯という性質の異なる2つの集落の生業や信仰を守る術を身をもって学ぶ。そして、自分自身に適した場所を見つけて生きていく。有瀬西峯の集落民は集会所を介した新たなコミュニティの中、タコウノヤマや人為地形をはじめとした集落の根幹を拠点空間の中で再認識し、この集落の根を実感しながら生きていく。

こうして、有瀬西峯の在り方を身をもって感じ、その魅力に心の底から共感する人々が住み続けることにより、生業、居住、信仰を継承し続ける。有瀬西峯がいつまでも生き続けることを、切に願う。

#### 6. 参考文献

- 1) 国土地理院地図：地理院地図/GSI Maps, <https://maps.gsi.go.jp/>, (accessed 2023.02.09)